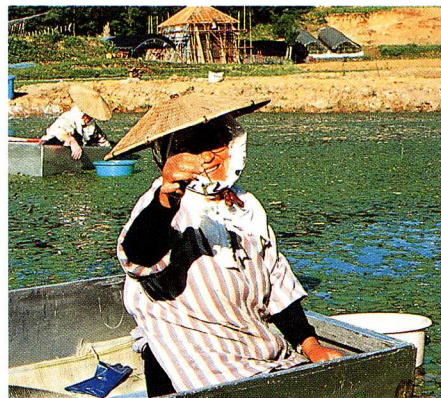


昭和村でジュンサイ栽培が始められたのは、昭和53年のことでした。それは、栗城義一さんが小野川湖よりジュンサイの苗川本を手に入れ、新田奥の沼尻に植えたことに始まります。しかし、この年植えられたジュンサイは水温調整がうまくいかず全滅してしまいました。義一さんは、この失敗を生かし、翌年50本の苗を買い求め、ふたたびジュンサイ栽培に挑みました。義一さんの熱心な研究とジュンサイ田んぼの改良は続きましたが、始めてから5年間は失敗の繰り返しでした。この間、義一さんと奥さんのミチイさんによるジュンサイ田んぼの改良工事は、とどまることなく続けました。

雪のない時期二人は、田んぼを深く掘り下げ、山水をたくさん入れられるようにしました。また、山水は上の田んぼから下の田んぼというように同じ水を使うのではなく、山からわき出た「生きた水」をどの田んぼにも直接入れるようにしました。そうすることで、真夏でも水温を低く一定に保てるようになったのです。山が深い雪に覆われるころになると、二人は山から赤土を掘り、そりに乗せては汗だくになりながら何度も何度も田んぼに運び入れて肥えた田んぼに仕上げていきました。

それまでは粘土質の土であったためジュンサイはうまく育ちませんでした。こうした努力の末、今では昭和村の特産品の一つに数えられるジュンサイが生産されるようになったのです。



しかし、現在昭和村において、このジュンサイ栽培を行っている農家は唯一、義一さん夫婦だけなのです。これだけ苦勞してここまで育て上げたジュンサイ作りです。いつまでも受け継いでいきたいものです。